



たづがね

(鶴が音)

「笑顔いっぱい 元気いっぱい 夢いっぱい」の西北台っ子



本に親しむ児童を

今年度はぼちぼちいこかさんによる読み聞かせに加えて、教職員による読み聞かせも行う計画を立てました。もちろん校長の私も読み聞かせをします。



この学年にはどんな本がいいかなあ、と考え本を選定しています。また、図書事務員の松本さんにお勧めの本を紹介していただいている。

そんな折に、教育弘済会様より児童図書の寄贈（写真上）がありました。早速図書室に新本として並べたところ、子どもは手に取り借りていきました。

また、先日のフィンランド大統領夫妻が羽咋市を訪問された際に、フィンランドの児童文学「ムーミン」の本（写真右）を本校にも寄贈してくださいました。



昨年度はみずほ教育福祉財団様からも寄贈していただきました。

このように様々な方々から学校に寄贈していただけることはとてもありがたいことです。それも子どもにとって本に親しむことは大切なことである、という証だと捉えることができます。このことを鑑みると、児童がより本に親しむことに注力していくことが必要です。

学校では図書委員や図書事務員さんが、子どもが本に親しむ習慣を身に付けるためにいろいろなアイデアを出して活動しています。今後も子どもの知性や感性を磨く上で大切な本に親しむ取組を行っていきたいと考えます。

読書活動の効果について



★語彙力が身につく

本の中には、普段会話をする際に自分で使わないような言葉もたくさん出てきます。知らなかった言葉に触れ、さまざまな言葉を覚えていくことで語彙力が身につきます。

語彙が豊富になると表現力が豊かになり、学力の向上やコミュニケーションスキルのアップにもつながっていきます。

★読解力が育つ

内容を理解しながら文章を読み進めることで、読解力がはぐくれます。「勉強」として文章の読解を習うよりも、物語を楽しみながら読んでいく方が、無理なく読解力を身につけることができます。

語彙力の向上とともに、国語学習に直接役立つのが読書のよいところです。

★論理的な思考力が育つ

物語は起承転結などの構成に沿って話が作られています。読書をすることで、順序立てて物事を考える力がはぐくまれ、論理的な思考力が身につきます。論理的な思考力は学習効率を高めるとともに、社会に出てから仕事を進めていくうえでも大いに役立つでしょう。

★集中力が鍛えられる

本の内容を理解しようとするとき、人は集中して文章を読んでいます。とくに好きな本に出会ったときには、昼夜を忘れて一気に読み進めるようなこともあるでしょう。その経験を繰り返すことで、子どもの集中力はどんどん鍛えられています。

★いろいろな知識が得られる

今まで知らなかつたことを本で知った、という経験をした方も多いのではないでしょうか。まだまだ経験の少ない子どもにとって、本から得られる知識は計り知れないものがあります。

歴史や偉人伝、自然現象など、学習に直接役立つものはもちろん、日々の生活を豊かにするようなさまざまな知識が得られるのも読書のよさといえるでしょう。

★想像力が豊かになる

本を読んでいるときには具体的な情景を思い浮かべたり、主人公の気持ちを考えたりと、いろいろなことを想像しています。頭の中でさまざまなイメージを思い浮かべることによって、想像力が養われていきます。

★リラックス効果がある

読書を楽しんでいると、自然とストレスが解消されていくといわれています。寝る前に本を読むと、リラックスした状態で眠りにつくことができ、より良質な睡眠をとることができるでしょう。ただし、わくわくして起きが気になる本や、夢中になるような本だとかえって目が冴えてしまうこともあるので、選ぶ本には注意が必要です。

【GAKKENより】